（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスぴあ			
○保護者評価実施期間	令和8年4月1日	～	令和8年4月22日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１３人	（回答者数）	10人
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日	～	令和8年4月22日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5人	（回答者数）	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◎設立時から、常に児童と保護者や家族に寄り添った支援を行ってきた。特に大変な母親には、頻繁に状況を確認するなど関りを持ち続けるようにしている。 新規で入所を希望する方や、相談支援員、子育て支援課などからも「しっかり親支援、家族支援をする事業所」との評価を貰っている。	◎利用児童が「ぴあ」を卒業しても、保護者と合わせて関わりを持ち続けている。卒業した先輩が就職しても、良く「ぴあ」に遊びに来てくれている。 ◎児童発達支援管理責任者は、勤務時間外でも、緊急時には困っている保護者からの電話に対応して、アドバイスを送り、場合によっては訪問することもある。	◎職員と利用児童との愛着関係を確立し、相互信頼の上に立って、SSTやLSTの展開を行っていき、保護者との共通意識として児童個々の自尊自立を目指している。
2	◎療育の目的意識を保護者や子どもたちと共有して療育を行っている。 目的意識とは ①自立した生活の確立によるグループホームの活用 ②将来の就労に向けてのソーシャルスキルの習得 ③金銭の自己管理意識の深化	◎就職可能な資質を身に付けるための支援のポイント ①大きな声で挨拶や返事をする。 ②嘘をつかずに、間違ったら素直に謝る。 ③人の物は黙って触らない。 以上の3点を常に意識するように療育を行っている。	◎保護者が安心し、児童が将来的に自立生活を実現できるように、講師を招いて利用可能な施　策や制度についての勉強会を行っていきたい。 ◎令和６年度に、「ぴあ」親の会で障がい児の性教育の専門家を招いて講演を行ったが、好評であったので引き続き定期的に開催していきたい。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◎第3者委員会の立ち上げを早急に行うこと。	◎日々の療育に追われている部分がある。	◎立ち上げについて良く調べて手を打っていく。
2			
3			

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスぴあ

公表日 令和8年5月1日

利用児童数　16人　　回収数　１０世帯

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9			1	皆で運動ゲームができるくらい十分なスペースだと思います。	常に整理整頓を心がけさらに快適な空間にして参ります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8			2	いつもよく見て頂いて解らない宿題も教えて頂き助かっています。ゆとりをもって配置して頂き安心です。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			1	室内は全体を見渡せるようになっていて、子供たち全員の顔が見え段差が全くないので、転ぶこともなく安心しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10				いつも清潔で、子供たちと一緒に清掃するようになっている。良い習慣が身に付き、自宅でも手伝いをしてくれるようになりました。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10				子供の課題や特性を良く知って下さり、親の願いに沿った支援で、できることが増えて成長が期待できます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	10				いつも、支援プログラムに基づいた支援を提供してくださっており、安心してお任せしています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10				子供の課題や特性を良く知ったうえで、親の願いに沿った個別支援計画を作ってくれています。	「こどもにあった支援をして頂いています。」との声も頂戴しています。更に療育の質を深めて参ります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10				子供本人は勿論のこと、親の相談を受けての助言をしてくださいます。兄弟でお世話になっていますが、家族のことも積極的に関わって頂き、安心して子育てができています。また、保育園から小学校に上がる時も、保育園、小学校の先生方と連携をとって下さり、スムーズに入学できました。	高評価有り難うございます。今後も 親支援・家族支援を充実させてまいります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9			1	常に子供の課題を明確にして、一歩一歩前に進めるように導いて下さり、親にもこれができるようになったとか、次はこの課題に挑戦しようと具体的に教えてくださいます。	「その日の出来事や作った作品を嬉しそうに話してくれる」などのお声も頂いております。今後も活動の目的が身につくように工夫して参ります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9			1	子供に合った課題やお買い物、クッキングなどいろんな経験を積ませて頂き親子で喜んでいます。感謝しかありません。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1		2	色々な場所や人との交流で、子供も人との関わりの大切さを感じています。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10				契約時に具体的に丁寧に説明してくださいました。また質問にいつも迅速・丁寧に説明して下さっています。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10				はい、丁寧に説明を受けました。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10				親の会での研修や勉強会では、講師の先生も呼んで下さり、子供の将来を考える上で、とても役に立つ話が聞けてとても感謝しています。また親同士で仲良くなれました。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10				毎日の記録ノートの他にも、チラシや、ライン、インスタグラムなどで、いろんな情報を発信して下さっています。とても有難いです。	有り難うございます。これからも、インスタグラムやラインのツールを使い、お子様の日々の様子や頑張っている写真などを送り、リアルタイムでお伝えしていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10				はい、丁寧に説明を受けました	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10				どの先生方も優しく、協調的で、子供達も〇〇先生が大好き、〇〇先生も大好きなどと言っています。もちろん悪いことはキチンと注意し納得させて下さいます。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9			1	親の会の活動の一環として、フラワーアレンジのワークショップや、語る会などをしてくださっており、親同士で悩みを語り合ったり、励ましあったりしています。ただ、就労されているお母さんは、時間的に参加しにくいようです。	

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9			1	いつでも相談に乗ってもらっています。 また、突然の電話でも丁寧に対応していただいています。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10				いつも、活動ノートで一日の様子を詳しく教えて下さっています。送迎時にも面談で子供の様子を教えて下さり、とても嬉しいです。	「その日の出来事や作った作品を嬉しそうに話してくれる」などのお声も頂いております。今後も活動の目的が身につくように工夫して参ります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	10				常にチラシ、ライン、インスタグラムなどのSNSで行事予定や、大阪府の支援策など大事な情報を送ってもらっています。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10				いつもきちんとして頂いているので安心しています。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			1	緊急対応マニュアルや防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどについて、わかりやすく説明を受けました。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			1	度々、子供たちに避難訓練をして頂いています。ヘルメット着用をして、机の下に潜ったり、第1次避難場所の公園へ非難したりと、身に付く訓練をして頂いて有難いです。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	9			1	常に子供たちの安全第一で支援をしてくださっています。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10				些細なことでも、ケガや急な発熱、体調不良があれば、すぐに連絡をくださいます。 先生方は子供の異変を敏感に察知してくれるので安心です。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	10				子どもは「ぴあは休みたくない。」と言っています。また、「ぴあ」を利用しない日は、がっかりした様子を見せます。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	10				学校よりも落ち着く場所と言って毎回楽しみにしています。本人は、「ぴあ」は卒業したくないと言っています。	有難うございます。お子様が更に喜んで来て下さるよう、きめ細やかな関わりを心がけます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				楽しみながらいろんな力をつけて頂き感謝で一杯です。親子で大満足です。	有難うございます。 これからも、できるだけ日中活動の様子をお伝えできるように取り組んで参ります。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスぴあ

公表日 令和8年5月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		個別対応は事務スペースで行い。、ログラムを行うスペースは十分に確保 している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5		専門職である保育士を定数1名に対して更に2名を追加配置しており、計3名の保育士と児童指導員1名で手厚い療育を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		事業所内は全面フラットで全体を一望できるようになっていて、入口はスロープで.トイレや手洗い場もフラットにして段差をなくし、つまづきや転倒の防止に努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		事業所内は、常に清掃とアルコール消毒をおこなっており清潔の保持に注力している。また、職員と子供たちに手洗い、消毒とマスク着用を励行し、常に感染症防止の意識啓発を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもがクールダウンを必要とするときに、小スペースの「一人になる部屋」を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		始業前に短時間で打ち合わせ。つねに個々の職員との振り返りを通じて目標に対しての現状認識を共有している。	シフトの関係で、全体会議で一堂に会するのは難しいが、工夫して行えるように調整している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価表結果や保護者会、家庭訪問などにより、保護者の意向を把握し、迅速な改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		始業前に短時間で打ち合わせ。つねに個々の職員との振り返りを通じて目標に対しての現状認識を共有し、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	常に、大阪府障がい児通所支援事業の研修会を積極的に受講し、業務改善に繋げている。	第三者による外部評価については、喫緊の課題として実施に向けて準備をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員を順次、大阪府や門真市の研修講座に参加させ、所内で伝達講習を行って全職員の資質向上を図っている。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心にモニタリング時に課題を洗いだし、反映させたうえで支援プログラムを作成・公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		利用者の主治医、担当心理士からの情報と支援相談員の情報及び日々の行動観察記録を活用し、保護者との面談情報を加味して放課後等デイサービス計画を策定し療育を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心に、職員間で打ち合わせを行い、情報共有のうえ放課後等デイサービス計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	5		児童発達支援管理責任者を中心に利用児童の放課後等デイサービス計画を基に職員個々とで展開、役割分担、課題の確認を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		「マキノ・中島式」発達検査を用いて個々の特性の変化を把握し、行動様式の変化・進歩状況に応じた療育を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		子供本人は勿論こと、親から相談があれば即応し、兄弟家族の変化にも気を配り、少しでも異変を感じたら積極的に家族支援を行い、常に家庭単位で療育を進めている。また、卒業期や進学 期には、保育園、小学校や中学校の支援担当や親御さんと連携しスムーズな移行が行われるよう支援を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		児童発達支援管理責任者を中心に利用児童の支援計画を基に職員個々とで展開、役割分担、課題の確認を行っている。	

援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		野外活動や調理実習、手芸、工作、感覚統合運動など集団活動や個別活動のプログラムを用意して、子供達の興味を引き出して、活動の目的が身につくように工夫して療育を進めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		学習、工作、手芸などの個人活動と、異年齢を交えたゲーム、感覚統合運動などの集団活動を適宜組み合わせて支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		シフトの関係で短時間ながら、支援プログラム、役割分担、注意点などを確認、職員間の意思疎通・連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		勤務シフトの関係で早帰りの職員には、翌日の始業時に振り返りと反省を行い、職員間で確認しあっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		サービス提供記録、個々の児童の療育記録、学習記録を全職員が確実に読んで支援に役立てている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		個別に定期的にモニタリングを実施しており、必要があれば計画の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		ガイドラインの「4つの基本活動」に沿って支援を組み合わせ、支援に変化を付けるようにしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		学習、工作、手芸などの個人活動においては、常に選択肢を複数用意し、子供が自ら選び取れるような環境作りを行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		主として児童発達支援管理責任者が参加しているが、事業所内において内容の報告と会議録や資料の供覧で、職員の共通理解を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		常に、門真市障がい児通所事業所連絡会に参加し、児童発達支援センター、門真市障がい福祉課子育て支援課　と連携して支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		小中学校や支援学校との情報共有、連絡調整には特に注意を払っており、齟齬をきたさないように連携を密にしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		関係機関を訪問し、利用者の情報提供を受けるとともに、就学後の療育の進捗状況を報告して、相互理解を深めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		当該就労支援事業所を訪問し、「ぴあ」利用児童の情報提供を行うとともに、卒業前の療育の進捗状況を報告して、就労支援にスムーズに移行できるよう努めている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	5		大阪府障がい児通所支援事業所育成事業や門真市児童発達通所支援事業所連絡会と連携し、研修や助言等を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		「ぴあ」利用児童は、初めての人や場所にパニックを起こすので、近接する公園で運動遊びをしている時に、顔見知りとなった地域の子供たちとの交流を図っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		門真市自立支援協議会に積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		毎日の「サービス提供記録帳」で　家庭での様子、問題行動、施設での様子、発達状況などの情報を共有し、家庭連携と保護者会で様々なニーズを受けて課題を明確にしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者との連携を密にし、すぐに相談、家庭連携などで対応、親支援に　注力し続けており、ペアレントトレーニングのプログラムを行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約当初に詳しく説明するとともに、随時状況に応じて保護者に対して必要な説明を丁寧に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		家庭連携、送迎時の面談、電話での相談などに即応している。親支援を重要な柱と位置付けているので、利用児童や保護者に、少しでもいつもと違った様子が見えれば、こちらから積極的に声掛けをして相談しやすい環境を作っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	5		契約時には特に念入りに説明を行っているが、以降も適宜説明を行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者との連携を密にし、すぐに相談、家庭連携などで対応、電話応対は勿論のこと、できるだけ対面での相談を行い精神的に下支えしている。親支援・家族支援に注力し続けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		親の会で研修や講師を招いての勉強会を行っており、活動の一環として、フラワーアレンジのワークショップや語る会なども行っている。その中で、親同士で悩みを語り合ったり、励ましあう場にもなっている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情には、どんな小さなトラブルでも「サービス提供記録帳」や電話で保護者に説明し、迅速かつ丁寧な対応を心がけている。常に課題に対する解決策を見出す努力を続けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		会報は発行していない。毎日の「サービス提供記録帳」や、インスタグラム、ラインなどを活用し、チラシを配布して、活動状況の報告や行事予定の周知、健康等の注意喚起を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		大阪府個人情報保護条例の規定通り配慮している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		特に、「視覚」から情報が入るように配慮。 視覚支援を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		近くの老人施設に訪問交流、近くのお弁当屋で買物実習、餅つきの餅を近隣に配布など、積極的に交流している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		緊急対応マニュアルや防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどについて、わかりやすく説明をしている。また地震を想定した防災訓練も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		業務継続計画（BCP）を策定している。 年1回は門真市の防災避難訓練に参加し、年に2回は自主防災訓練を行っている。	防災タペストリーなどを使って防災意識を高めて、避難場所までのコースを実際に歩いたり、初期避難などの訓練を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		保護者からの聞き取りで掌握し、服薬のタイミングや用法、容量を職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		タマゴアレルギーや、甲殻類アレルギーの児童がいるが、保護者を通じて医師の指示を確認し、家庭の協力も得て、適切に対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を策定し、職員に研修を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5		分かりやすく説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事業所内で周知し、改善を図っているが、更に徹底していく。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		大阪府の虐待研修を毎年職員交代で受講し、所内で伝達研修を行っている。また、DVDを使っての所内研修も行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。				該当事由なし